

## 私たち自身のために戦う

2007年1月 北米西海岸リーダーズワークショップにおけるティム・ジャキンズの話より

私たちは、抑圧的な社会で人々が踏みつけられていることに直面しなければなりません。彼らは戦わないように教えられます——彼ら自身やほかのほとんどのことのために戦わないように。抑圧的な社会は、機械的で厳密なやり方で抑圧を植え付けますが、あらゆる人に同じように降りかかるわけではありません。異なるパターンが表れてきます。ここにいる私たちのほとんどは、おとなしく引っ込み思案になるパターンを持っています。私たちは自分自身のために戦うことができません。私たちは、ほとんどの場合戦えないだけでなく、明らかに自分自身のために戦うのに苦労しています。私たちは多分、ほかの誰かや大義や私たちの子どものためには戦えます。しかし、自分自身のために戦ったり抵抗したりすること、ただ自分自身でいるためだけに喜んですべてを賭けることは想像することもできません。

根本的なポイントは、私の考えでは、あなたは戦う価値があるということです。あなたは戦う価値があります。戦う価値があるのです。あなたがやり遂げたことでも、あなたが知っていることでも、あなたの関係でも、あなたのやろうとしていることでもありません。それらすべては重要で価値のあるものですが、さしあたり、忘れてください。ただただ、あなたがあなたであるというだけで、戦う価値があるのです——あなたはあなたにしかない人間の特質を持っているからです。あなたは単にあなた自身の素敵な複雑さのために、戦う価値があるのです。それは大きな戦いの価値があります。ほかに何も必要ありません。

あなたはこのことを生まれたばかりの赤ちゃんについて知っています。彼らが何も成し遂げていないことを知っているし、彼らにうまくやることを期待しません。多分彼らに妙な期待をかけないでしょう。彼らは生きています。そのことが、あなたが彼らに望むすべてです。あなたは彼らに生きていてほしいから、そのために何があっても戦うでしょう。それがなぜあなたにも当てはまらないのでしょうか？ 今のそのままのあなたを考えてみれば——今までにあなたがしてきたすべて、ほかのよくやったことすべてを忘れて——ただのあなたで、十分ではありませんか？ そうでなければならぬと私は思います。あなたはかならずしも簡単にこの結論まで考えぬけないでしょうが、それは十分でなくてはならないと思います。あなたの存在で十分なのです。大層な理由とか将来の保証とかそういったことは何も必要ないのです。あなたは生まれたばかりの人と同じです。その複雑さ、知性——それこそ戦う価値のあるものなのです。あなたです。まさにあなたであるがゆえに。あなたは心配し、混乱し、悲しくて、さみしくて、そしてあなたを混乱させる傷も積み重ねられていますが、それらはただディスチャージすればいいのです。

あなたは自分自身のために——何の弁明もせずに、戦うことを学ばなければならぬでしょう。理由を捜さないで。ただあなた自身のために戦うのです。なぜならあなたは十分よく考えられるから、これもできるのです。それ自身のために戦うことのできる心を持っているからです。こんなすばらしい心を持っているのであれば、じゃ、それをどう活かすべきだと思いますか？ こんな能力を持つべきではなかったかと思っているのですか？ (笑) あなたはこの能力を持っているのです。でもまだしっかり使っていません。「いつか多分、特別な場合に、でも今じゃない」いいえ、おそらく今が最高の瞬間です。あなたには戦いの価値があるのだと、決断しなければならぬのです。

もちろん、この取り組みから得る利益は個人の利益にとどまりません。自分の心のために戦うと誓うことができれば、私たちが追求するあらゆることにおいて、強くなれるでしょう。あらゆる場面で戦ううちに、私たちは自分自身について混乱し、力強く価値ある存在だなんて信じられなくなります。私たちは負け続けてきて、敗北を受け入れたので、混乱しています。私たちは敗北を経験しました。戦いに敗れました。多くを失いました。しかし、私たちは敗北がもたらす傷をディスチャージし、さらに多くの戦いを見つけ、あらゆる前進を続けることができます。

しかし、もしそれと共に前進するのではないなら、——もし私たちの心を前進させることができなければ、前に進むことはできません。もし私たち自身のために戦うことができなければ、戦い続けることはどんどん困難になるでしょう。では、6分ずつのミニセッションをしましょう。私たちが自分自身のために戦える場面やその可能性を考えるために。

Fighting for Ourselves

プレゼントタイム2007年7月号 17 ページより

Tim Jackins

翻訳 野町純子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります。(翻訳文2008年。原文2007年)。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。